

「平城宮跡ヲ8次発掘調査終了報告」

特別史跡「平城宮跡」のヲ8次発掘調査は昭和37年2月10日から5月14日にかけておこなった。

調査地域は、当時宮内省大膳貳または内膳司が所在したと推定される一部で、奈良市佐紀町寺前に属する東西に細長い地区（6A B O | A・B・C地区）と一条通に北接する小地区（6A B O | E地区）からなり、前者はヲ5次調査地域に西接し、ヲ7次調査地域に南接する。調査総面積は計30アールである。

検出した主な遺構は、建物17棟・土塁および柵3列・溝2条であるが、これまでの調査でその一部をすでに検出しているものもあり、今回あらたに発見したのは建物10棟・土塁2列の計12遺構である。建物は特記せぬ限り掘立柱建物である。

これらの遺構をこれまでの調査成果（奈文研学報15・年報1962）と対比して、造営期別に類別して略述する。これら遺構の配置と規模は付図表に示したとおりである。各造営期は既調査結果により、ヲI期は和銅末年、

ヲⅡ―1期は天平末年 ヲⅡ―2期は天平宝字末年 ヲⅡ―3期は宝龜年間 ヲⅢ期は大同年間と推定している。

〔ヲⅠ期〕

調査地域西半部の地山直上に厚さ約5mの盛土があり、その上で4面に廬をもつ建物SB₁₀₀を検出した。東西方向の溝SD₁₀₀は盛土以前の地に掘られたもので、調査地東部の低地に入つて消失する。既調査地区で検出し得た部分とあわせると、東西約120mとなる。

〔ヲⅡ―1期〕

ヲⅠ期の柱穴をおおつてこの地域一帯に盛土し、多数の建物が造営された。

ヲⅡ―1期の建物はSB₁₀₀・212・299・370などであるが、いずれもその一部が前回までの調査で検出していたが、今回の調査ではじめてその全規模が明らかになった。SB₁₀₀と212、SB₂₉₉と370はそれぞれ面妻をそろえて配置されている。なおSB₃₇₀には北・西側に雨落溝が残存していた。調査地北辺で東西に伸びる溝SD₁₀₀は、調査地よりさらに東に伸びている。

〔Ⅱ期〕

建物の柱間寸尺が大きくなり、棟数が増え、全体として整備された時期である。今回の調査地域内にはSB No. 1・2・3・4・5の4棟が建てられた。Ⅱ期調査で西妻の一部を検出したSB No. 1と2はⅠ期のSB No. 1と2に各々重複し、西妻をそろえて建てられている。SB 364はあらたに検出した南北に廂のある9×4間東西棟建物で、北と南に雨落溝が残存する。その規模からみて、この一郭の建物のうちではSB No. 1に比べ重要なものとみられる。なお、SB No. 1の西に石敷溝SD No. 1があり、南北の雨落溝をつないでいる。

〔Ⅲ期〕

Ⅱ期と比べて、片廂の小さな建物が多く建てられた時期で、今回の調査地域ではSB 348・413を検出した。このうちSB 413は南に廂が付くが、一部に小礎石を混用した掘立柱建物である。

〔Ⅳ期〕

Ⅱ期の後で盛土を行い、Ⅲ期調査地域のF地区から連なる南北方向の柵SA No. 1が造営された時期である。この柵は今回の調査地域の北端に

までおよんでいる。

なお南才のE地区では、東西方向の土塁SA36を検出したが、この土塁には8m間隔で礎石が2個(SB435)置かれていた。SA36の造営期は確かでないが、西才のN地区で検出した土塁SA39のほぼ延長線上にあたる。

この他に造営期を明らかにし得ない遺構として、SB340・347・349・366・371・389などの建物と、調査地の東辺で検出した南北方向の土塁SA350がある。このうちSB350は小礎石と掘立柱を混用していた。遺構は以上のものであったが、遺物にはみるべきものが少い。ただ、瓦類のみは特にE地区の土拵SK2からやや多量の出土をみた。

最後に今回のやり次調査で注目すべき2・3の点をあげると、まずヤ1は官衙における主建物の規模を確認したことである。これまで6ABO区が官衙地区にあたり、建物の配置・規模などから、SB317・200・201を各期における主建物と考えていたが、各々その一部しか検出しておらず、今回の調査で全規模を明らかにすることができた。すなわち、SB317・200は4面に廂を持ち、SB201は南北両面廂とさらに南面に孫廂

を持ち、他に比して主建物と呼ぶにふさわしい規模の建物であることを確かめた。*2は6A B O区の東半地区の東限を明らかにし得たことである。この地区の西限・北限・南限はこれまでに明らかになつてゐるが、今回出土したSA 350の検出によつて、その東限を定めることができた。このSA 350の造営期と存続期間は不明であるが、6A B O東半地区、すなわち大膳軒ないし内膳司の東限を画したものであることにおいて、それらの時期にづらなるとみてよいであらう。

造 期	建 物					溝		柵 土 墨	
	番 号	規 模	身 舎	廂	方 向	番 号	方 向	番 号	方 向
I	SB 317	7×4間	5×2間	4面廂	東 西	SD 141	東 西		
II-1	SB 200 SB 212 SB 299 SB 370	7×4 7×2 7×2 7×2	5×2	4 面 ナ シ ナ シ ナ シ	東 西 東 南 西 北 西 北	SD 126-B	東 西		
II-2	SB 201 SB 213 SB 341 SB 364	7×5 7×2 5×3 9×4	7×2 9×2	南北南に孫廂 ナ シ ナ シ 南 北	東 西 東 南 西 北 西 北	SD 400	南 北		
II-3	SB 348 SB 413	5×2 5×3	5×2	南	東 西 東 西				
III								SA 304	南 北
	SB 340 SB 347 SB 349 SB 366 SB 371 SB 389	4×2 5×1 4×2 5×1 9×2 3×3		ナ シ ナ シ ナ シ ナ シ	東 西 東 南 西 北 西 北			SA 436 SA 350	東 南 西 北